

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800035		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	グループホーム あったかいごひといち		
所在地	岩手県遠野市中央通り5-25		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390800035-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街に位置し、行祭時は施設前の県道で行われることが多い為、その都度観覧しております。地元の商店街の進行協同組合や自治会に加入し積極的に交流を行い、地域に根差した施設となるよう努めております。また、職員の資質向上のため遠野市内のグループホームと合同で和みカフェを開催したり、月に1回内部研修を行う等人材育成に力を入れることで、利用者がより安全で楽しく健康的に生活できるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあったかいごひといち」は、遠野市の中心街、銀行や商店が立ち並び、一日市通り(ひといちどおりに)位置し、利便性が高い。事業所は、1階がデイサービスで、2階部分がグループホームになっており、出入りは1階から階段とエレベータの両方で行っている。
地域の自治会、商店街、商工会に加入しており、行事や祭りに参加し、積極的な交流を図っている。
運営面では、開設9年目であることから基本的な仕組みが整っており、研修やアメーバ経営、和(なご)みカフェなど職員の資質向上のための取り組みがなされている。特に、当グループホームが独自に作成した所長理念で、「顧客満足度を追求」しようとする姿勢が伺え、ホームからは広報を作成して、情報提供し、利用者・家族に対するアンケートを実施して意向を把握している。また、ホール兼食堂の壁際に並べられたソファーに、利用者が並んで座って談笑している姿が印象的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念「医療・福祉を通じて人々の健康と安らぎを願うとともに全社員の物心両面での幸せを追求する」所長理念は「私たちは常に明るくプラス思考で感謝の気持ちを忘れずに顧客満足度を追及します。」とし、内容を見やすい所に掲示し朝礼時に唱和している。	「医療・福祉を通じて…」という法人全体の経営理念のほか、「顧客満足度を追求します…」という当ホーム独自の所長理念がある。共に玄関口に掲示し、朝礼時に唱和するなど、職員への浸透を図っている。この理念を元に、アメーバ経営という、4本柱からなる目標・具体行動・標語を定め、PDCAサイクルで日頃の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設は自治会、商店街及び商工会の会員として、地域のお祭りや行事に積極的に参加する中で地区民と交流を深め、良い環境が出来ている。	遠野市の中心街に立地する特性を活かし、自治会、商店街、商工会に加入して、諸行事や祭りに積極的に参加するほか、生徒、こどもたち、ボランティアの訪問も見られ、地域の一員としての交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、職業訓練生や地元の中学生の実習受け入れを積極的に行い、その際の認知症の理解や支援方法を細かく指導するよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や現在取り組んでいる内容について報告し、家族や地域住民、民生委員、行政の方々より意見を拝聴、実施可能なものは採用している。	年間6回、併設のデイサービスと合同で開催している。利用者家族(固定していない)のほか、外部から老人クラブ役員や民生委員・地域包括支援センター(直営)職員も参加し、意見交換している。	運営推進会議の構成メンバーについて、警察・消防・医療関係など話題提供者(ゲスト)を含めた工夫をし、会議内容が現状より更に充実・活発になるよう、配慮することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の疑問等について機会を捉えて相談・協議を重ねている。また定期的に広報誌の送付をして連携を密にしている。	運営推進会議に市健康福祉の里地域包括支援センター(市健康福祉の里福祉課と一体)が参加しており、また、和(なご)みカフェの場を用い、地域包括支援センターが主催する「地域ケア会議」に協力するなど、行政との協力関係が築かれている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務日誌に身体拘束の有無欄を設け記録している他、研修を通して常に拘束しない事を意識して行動している。安全面を考慮する為、転倒の危険性のある利用者の居室やホール出入口にセンサーを取り付け拘束しないケアをしている。	玄関の施錠は行っていない。業務日誌にも身体拘束の事例がない。安全のため、出入り口や転倒のおそれのある方の居室にセンサーを設置している。職員に対しては、研修、ヒヤリハット委員会の開催、接遇の具体標語作成などにより、スピーチロックを含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を管理者は日常的に身体拘束や虐待防止法を念頭にケアをし、研修を通し理解を深めている。また業務日誌等に虐待防止に関する項目を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の必要なケースについては、管理者及び計画作成担当者がおもに対応している。職員は研修会への参加や資料の観覧等を行い理解を深める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間をとり重要事項説明書・契約書を示しながら説明を行い理解を深めている。退去の際も、本人・家族・計画作成担当者によく話し合い、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、アンケートにより利用者・家族の意向の確認を行っている。また、利用者より意見のあった時には速やかに対応を検討している。サービス担当者会議や面会時などを利用し意見等を聞くようにしている。	年1回独自のアンケートを実施し、利用者・家族の意向を把握し、その反映を図っている。また、日常的には担当制をとっているため、日頃の観察や会話から、担当者が意向を把握するよう努めている。反映事例として、食事の際の場所替え、衣服等の買い物がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を開催し、職員会議で出た意見や提案は法人内の運営会議や施設内での全体の会議で報告、相談協議しより良い施設づくりに努めている。職員より、ホーム内の整理や飾り付け・業務の内容等、利用者の生活の改善に向けた提案があり、その都度検討し反映させている。	提案を聞く機会として、職員会議、アミーバ会議、カンファレンスなどの場が設けられているほか、日頃からいつでも、意見や提案が出されている。具体例として、食事介助の位置、洗濯物干し場の場所替え、壁の飾りつけで季節感を出す工夫、加湿器の場所替えなどがある。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の努力や勤務状況を把握し、上司に報告している。また話し合い等でシフトづくりを行い日々の就業環境を整えている。定期的に健康診断を行い健康保持増進にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数・勤務経験や職種を考慮し研修会に参加、資質の向上に努めている。また、毎月1回の内部研修・遠野市及び市内6か所合同での和みカフェ開催により職員、認知症に携わる方への悩みの相談や研修を行い市内全体の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の会員として積極的に参加し、交流を深めている。また市内同業者と一緒に市等の行事の観覧など交流・情報交換を行いサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず利用者と面談し、不安や困っていること・希望などを拝聴し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまで歩んできた状況や困っていること、心配していることなど話し合う機会を設け、事業所としてどのような対応が出来るか自然に話し合いや施設見学をしてもらい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、利用者に適した支援を見極めて対応している。また必要に応じて地域包括支援センターや他事業所に相談、助言等をもとに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯星など出来ることはいつでもできるように、できない事には少し手を貸し共に支えあう環境づくりに努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時や電話時に利用者の様子などの情報を共有し、共に支えあえるような関係づくりに努めている。また、3か月に1回広報を作成し情報を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くにドライブに行ったり、なじみの方が訪問された際にはゆっくり会話などが出来る雰囲気づくりに努めている。なじみの美容院に通っている利用者や、ご本人の希望を伝え、ご家族の対応により買い物や墓参りなどにも出かけている。	年間行事でドライブを行っているが、利用者の自宅付近を通った時は立ち寄りようにしている。親戚や友人等が訪問に来た際は、居室でくつろげるよう配慮している。訪問理容があるが、美容院に通う方には、その支援を行っている。また、希望者には職員が同行して買い物をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同志の関係の動向に注視し、職員が間に入り会話しやすい環境を作るよう目配り、気配りを行い、より良い人間関係が保たれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談できるように家族にも契約時説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や職歴から、ご本人の意向や思いを引き出すよう働きかけている。また、ドライブ等で自宅付近の景色を見ることで、昔の思い出や心の奥の真実の思いが聞かれる。言葉に表せない利用者の意向は、表情から読み取るよう努めている。	入居時、本人及び家族から、生活歴・職歴や、希望・意向をうかがっている。必要に応じ、民生委員や地域の方々など、多方面の方々から情報を得ることもある。意向を表すのが難しい方については、表情や動作などから意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や職歴を聞きとり、入居後も利用者の話や家族・知人の訪問時に情報を得るなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、全体像を把握するように努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日々の生活するなかで、思いや意見を聞くとともに、利用者一人を職員一人が担当し、月に1回ケアカンファレンスを行い、新たな課題がないか、現状に則した計画となっているかを話し合っている。	思いや意向を把握した後、ケアプランを作成している。その後、担当者を中心に、職員で日頃のモニタリングを行いながら、月1回、職員全員でカンファレンスを行い、達成度を把握し合っている。必要に応じて、プラン補足等を行っている。定期的には、原則6ヶ月(必要に応じ3ヶ月もある)ごとに、プラン見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の用紙に、日々の暮らしの様子や本人の言葉を記入している。また業務に入る前に記録の確認や情報の共有に努め、介護計画の策定に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望にそった食べもの、飲みものの提供や出かけたところ(美容院、図書館など)の外出を叶えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人クラブで構成する運営推進会議を利用して、意見交換をしている。また近所の方や婦人会に歌や踊り、マジックの披露などのボランティアとの触れあう機会を設けている。また、地域の祭事等に出向くなど機会の創出に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診している。家族対応で受信する際はバイタルチェックや日頃の様子を伝えている。ご家族からの要望があれば、職員が付き添い受診できる体制となっている。	かかりつけ医を受診する際の介助は、原則家族であるが、必要に応じ、職員が対応することもある。その際、体温・血圧・排便・下剤(使用の有無)、体重などを一覧表にした独自のバイタルチェック表を作成しており、その情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の変化や様子を職場内の看護職や管理者に報告、相談し受診の際医師に報告し体調管理を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者や計画作成担当者が体調の確認に勤めている。また家族や担当看護師等と情報交換を行い、回復状況を確認しながら退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、利用者・家族に対し、医療行為を伴う場合は、体制が整っていない為看取り対応が困難である旨を説明している。しかし、医療行為の必要がない場合は利用者や家族の意向を踏まえ、終末期の検討を行っている。	書類作成はこれからという状況ではあるが、前回の外部評価を受けて内部研修等を実施しており、利用者の重度化や終末期に向けた「看取り」を実施する方向で検討継続中である。	検討継続中ではあるが、看護職員が配置されている状況でもあり、「看取り」を実施できる方向性について更なる検討を深めることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急救命法の研修を実施し、全職員が対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回避難訓練や消防訓練を行い、災害時に備え緊急連絡網を各職員に配布している。夜間を想定した実践的な避難訓練も行い夜間でも安心して過ごして頂くようにしている。	事業所の設備は、スプリンクラーや、緊急通報装置などが完備しており、備蓄もなされている。炊事場は、オール電化である。避難訓練は、年2回実施しているが、夜間想定訓練を終え、実際の夜間時訓練まで実施している。地域の方に緊急協力員をお願いしており、近隣からの応援が得られる体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者をお客様ととらえ、接遇研修を行っている。職員は、利用者から教わることも多く人生の先輩と尊敬の念を持ち接している。	所長理念で「顧客満足度を追求・・・」と掲げているように、利用者をお客様と呼んでいるほか、トイレ誘導や排泄の失敗(失禁でなくおもらし)時の気配り、食事介助など細かい点まで、尊厳の尊重とプライバシーへの配慮が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けを行い、複数の選択肢の提案や希望を取り入れ、話しやすい環境を整え本人が決める場面をつくるようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のタイムスケジュールを基本に介護業務を推進し、利用者が望んでいることの期待にこたえるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望を取り入れ着替えの際には希望に沿って洋服を選ぶ難支援している。また、認知症により訴えが困難な利用者にはアセスメントから本人の好みそうな服を選ぶよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	モヤシのひげとりや後片付け・食器洗い等利用者の能力に合わせて職員と一緒に楽しい食事が創出されるよう取り組んでいる。利用者の好みを献立に取り入れるようにしている。	朝食は、職員が作っており、昼食と夕食は、ご飯は作るが、おかず類は、本社がメニューを考え、食材の配達までを行い、1階のデイサービスの調理員が、2階のグループホームの分まで含めて料理している。利用者は、下膳や食器洗いなどの手伝いをする方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は水分を毎日チェック表に記入。りょうしゃの体重の増減についても管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを行い、職員が見守り・介助し清潔保持に努めている。夕食の前に口腔体操をとりいれ誤嚥やむせこみの防止に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の時間や習慣の把握と体調観察、状態を見て声掛けによるトイレ誘導で自立に向けた支援を行っている。	一覧表形式のチェック表で、利用者それぞれの排泄パターンを把握している。自立者(布パンツ)3名、リハビリパンツ、尿とりパットを使用の方6名である。利用者皆が、トイレでの排泄ができるよう支援・誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には牛乳やヤクルトなどを提供。日中軽運動を取り入れている。便通が見られない方にはかかりつけ医と相談し便秘の対応に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に一度は入浴できるよう配慮している。入浴拒否の方には無理をせずタイミングを見て入浴の声掛けやシャワー等を行うなど清潔保持に努めている。	昨年まで、3日に1回という入浴回数であったが、利用者の要望もあり、2日に1回の入浴に変更した。職員の見守りの中で毎日4名の利用者が、1人ずつ入浴を楽しんでいる。隣接のデイサービスに温泉があるが、時間帯が合わず利用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めているまた、利用者の状態や体調、希望に沿った室内環境を整え、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の内服を週間個別記録票に記録したり薬の説明書を個別ファイルにファイルし職員が内容を把握出来るようにしている。またくすりの処方や要領に変化があった際には経過記録票に情報を提供し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や物干し、カーテンの開閉など得意分野で個々の力を発揮できるよう、利用者に向けた生活支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の状態や希望、天候に合わせてドライブなどを行っている。また、季節を肌で感じられるお花見や紅葉ドライブ等計画実施し、本を好きな利用者は図書館まで本を借りに出かけたり、食材の買い物の際一緒に買い物に出かける機会も設けている。	日常的な外出は、図書館通い(1名)、一日市(ひとり)通りの散歩、買い物(2名)などである。行事的な外出は、車でのドライブである。花見、紅葉狩り、敬老会(たかむろ水光園に行く)などの機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は全ての立替にて好きなものを購入でき、その楽しさの創出に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた際には利用者の意向を代筆したお手紙を書いたり、要望があれば電話を掛けたり絆を深めるよう支援を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームあつたかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や月ごとのスナップ写真を飾ったり、毎月のカレンダーに色を塗り季節の変わりを感じていただけるよう努めている。	ホール兼食堂が共用空間である。木目を活かした落ち着いた色調であり、大型テレビや神棚が飾られている。壁際に並べたソファに、利用者が、並んで談笑している姿は印象的である。なお、対面式の調理台で職員の目も届き、安全に配慮した設計となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に椅子やソファを置き、利用者同士が会話をしたりテレビを見たりできるよう雰囲気づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い居室を確保するため、利用者の相談に応じ、なじみの家具や写真などを飾り、居心地良く過ごせる環境づくりに努めている。	ベッド・クローゼット・エアコン・椅子が設備された居室には、大きめの窓があり、明るい。衣装ケースや家族写真のほか、TVやコタツなど、それぞれの生活に合わせた品物を持ち込んで生活している。エアコンの風が苦手な利用者には、温水ヒーターを貸出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわからなくなる利用者の部屋にはわかりやすくひらがなの大きな字で名前を表示している。		